

◆ 今週のコメント

- ・ ウイルス性肝炎(B型)の報告が、1例あります。30歳代男性で、感染経路は性的接触(同性間)です。
- ・ 梅毒(早期顕症Ⅱ型)の報告が、1例あります。30歳代男性で、感染経路は性的接触です。
- ・ 手足口病の定点当たり報告数は、7.83(313例)で、第28週(12.68)をピークに減少していますが、依然として非常に多い報告数となっています。年齢階級別では、1歳が最も多く102例(32.6%)で、以下、2歳 51例(16.3%)、0歳 46例(14.7%)、3歳 35例(11.2%)となっており、0歳から3歳で74.8%を占めています。
- ・ 伝染性紅斑の定点当たり報告数は、0.73(29例)で、前週(0.35)に比べ増加しています。昨年8月(平成22年第33週)以降、過去5年平均値を上回る状態で推移しています。
- ・ 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は、0.63(25例)で、依然として過去5年平均値を上回る状態が続いています。例年、夏季に報告数が多くなっていますので、動向にご注意ください。

◆ 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例(共に60歳以上の女性)あります。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 10例】
- ・ 五類: ウイルス性肝炎(B型) 1例(第28週分)【1月以降の累積報告数 3例】
- ・ 五類: 梅毒(早期顕症Ⅱ型) 1例(第28週分)【1月以降の累積報告数 3例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 手足口病	7.83	313
	② 感染性胃腸炎	2.48	99
	③ ヘルパンギーナ	2.40	96
	④ 伝染性紅斑	0.73	29
	⑤ 咽頭結膜熱	0.63	25
眼科	流行性角結膜炎	1.30	13

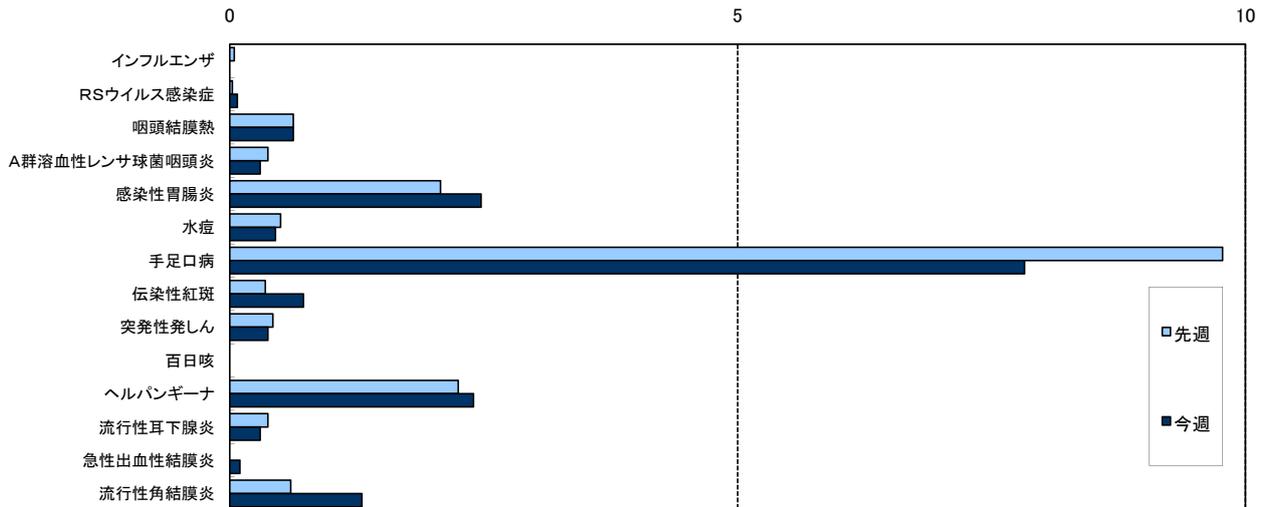
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

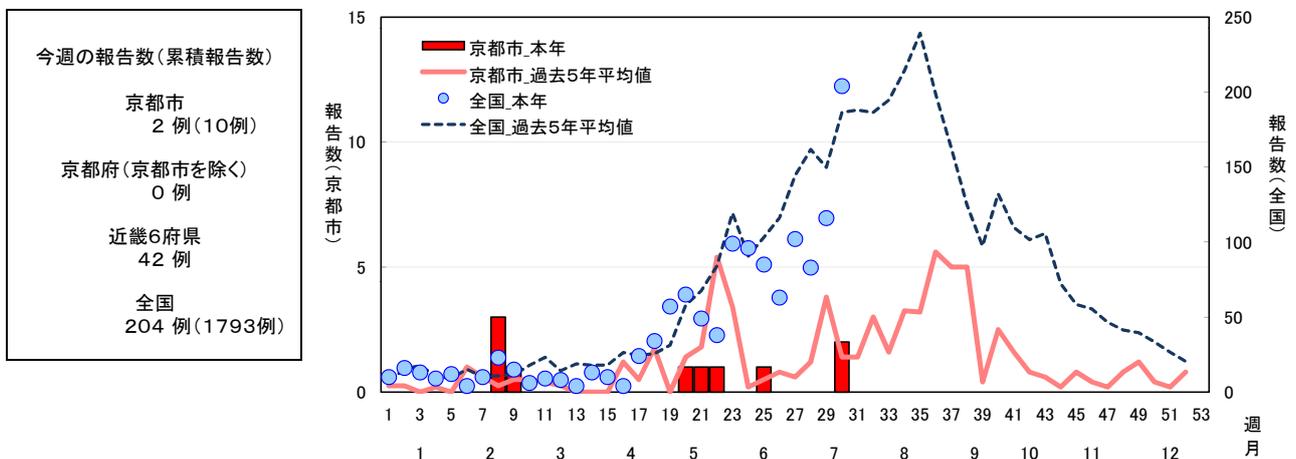
(注) 京都市のデータは、平成23年8月4日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第30週)と先週(第29週)の定点当たり報告数の比較

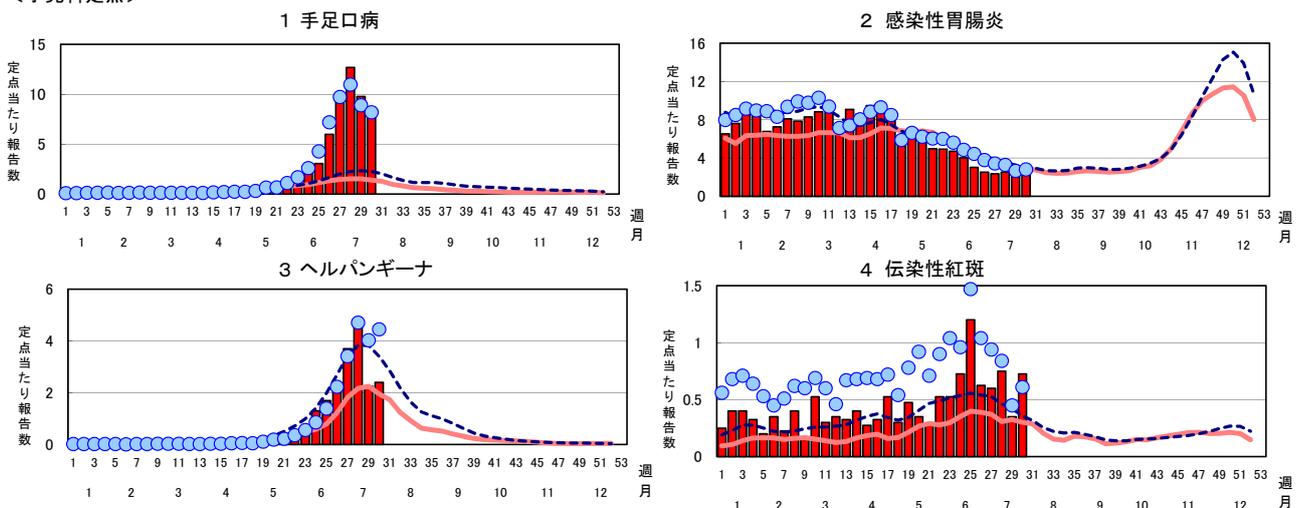


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

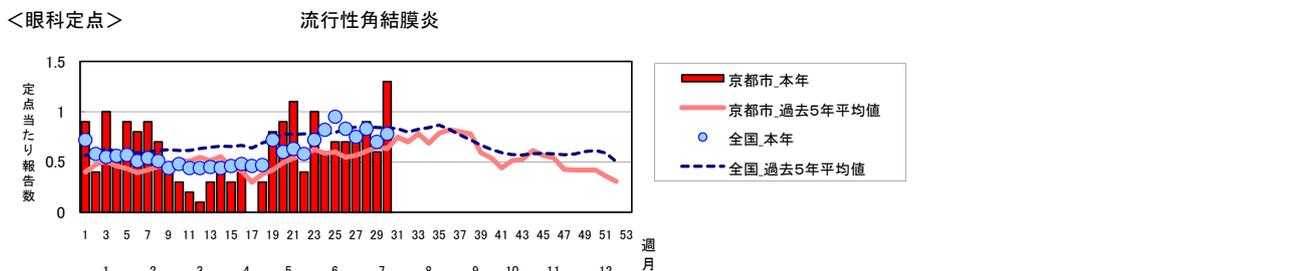


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



今週のトピックス：＜腸管出血性大腸菌感染症＞

腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例(共に60歳代以上の女性)あります。血清型別、毒素型は、共にO157, VT1 VT2で、推定感染経路は、共に経口感染で、1例は肉類(バーベキュー)によるものです。

本年の累積報告数は10例で、年齢階級別では、10歳未満が1例、10歳代が1例、30歳代が2例、40歳代が2例、50歳代が1例、60歳代以上が3例となっています。

平成11年4月以降、本市では、血清型別ではO157の報告が最も多く、次いでO26、O111の順となっていますが、本年は、O157が9例、O86が1例となっています。

なお、腸管出血性大腸菌感染症報告後にHUS(溶血性尿毒症症候群)の発症が認められた場合は、医療機関におかれましては、追加報告を、お願いいたします。

京都市保健福祉局保健医療課及び京都市衛生環境研究所では、「京都市こどもの感染症」を発行しています。8月号「感染症を予防してプールやキャンプを楽しみましょう」、5月臨時号「お肉の生食はやめましょう!!」などで、腸管出血性大腸菌の感染予防を啓発しています。

ホームページでは、バックナンバーもご覧いただくことができますので、プリントアウトし、掲示ポスターや配布チラシとして、御利用ください。

→ 京都市衛生環境研究所ホームページ <http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000007130.html>

本市における診断年別 型別報告数

診断年	合計	O26	O86	O91	O103	O111	O121	O145	O157	その他
平成11年4月以降	26								25	O1が1例
平成12年	33	8							25	
平成13年	52	8				1			43	
平成14年	35				1				32	O165, O型別不明が各1例
平成15年	101	5							96	
平成16年	48	2					4		42	
平成17年	36	5		1					30	
平成18年	57	2					1		54	
平成19年	54	2				3			49	
平成20年	86	34			5	2		3	41	HUS患者のため型別不明が1例
平成21年	93	8		1		3	1	1	79	
平成22年	34	1			1	2			30	
平成23年第30週まで	10		1						9	

本市及び全国の推移（平成22年～平成23年第30週）

